

図説・ガイド

大分の森林・林業、木材産業の現況

(令和3年度版)

令和5年3月

大分県農林水産部

はじめに

本書は、本県の森林・林業、木材産業の現況及び各種施策の実績について図表を中心にわかりやすく解説したものです。

今後の本県の森林・林業、木材産業の発展のため関係者の皆様方に広くご活用いただければ幸いです。

利用される方々に

1 本書は、県内の私有林を主たる対象とし、下記所属又は団体のデータから作成したものです。

- ・大分県林務各課室及び農林水産研究指導センター林業研究部
- ・公益財団法人森林ネットおおいた
- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター
- ・九州森林管理局
- ・九州農政局 等

2 本書は主として令和3年度末の資料に基づいて作成したもので、年度は会計年度（4月から翌年3月）、年次は暦年の事実を示しております。

3 数字の単位未満は四捨五入することを原則としているため、合計数字と内訳数字の合計が一致しない場合があります。

4 表中の符号は次のとおりです。

「 〇 」・・・掲載単位に満たないもの

「 — 」・・・該当事実のないもの

「・・・」・・・事実不詳、又は資料のないもの

1 本県の森林・林業の主要指標（全国・九州対比）

項 目	単位	全 国	九 州	大 分	全国に おける 順位	九州に おける 順位	資料
総 土 地 面 積	千ha	37,797	4,223	634	22	4	①
森 林 資 源							
森 林 面 積	千ha	25,048	2,665	453	19	4	②
森 林 率	%	66	63	71	18	2	②
民 有 林 面 積	千ha	17,389	2,157	404	17	3	②
人 工 林	〃	7,916	1,169	209	14	3	②
天 然 林	〃	8,747	834	157	19	3	②
無 立 木 地 等	〃	560	86	24	4	1	②
竹 林	〃	167	68	14	2	2	②
国 有 林 面 積	〃	7,659	507	48	20	4	②
民 有 林 人 工 林 蓄 積	千m ³	2,795,379	500,349	88,223	12	3	②
うち、スギ(5条森林)	〃	1,706,966	360,303	68,042	6	2	②
造 林							
造 林 面 積 総 数	ha	22,777	5,488	1,142	3	2	③
うち、スギ	〃	7,571	4,473	990	2	2	③
うち、ヒノキ	〃	1,894	252	39	15	4	③
林 道							
民 有 林 道	km	93,493	13,679	1,945	19	4	③
国 有 林 道	〃	46,278	5,607	472	19	4	③
林 業 経 営							
林 家 数	千戸	690	93	14	21	3	④
林 業 産 出 額	千万円	42,864	8,445	1,604	6	2	⑤
うち、木材生産	〃	19,437	5,117	1,038	5	3	⑤
うち、栽培きのこ類生産	〃	22,596	3,221	549	7	2	⑤
生 産 物							
素 材 生 産 量	千m ³	21,847	5,444	1,129	5	2	⑥
うち、スギ	〃	12,917	4,633	929	3	2	⑥
うち、ヒノキ	〃	3,079	731	185	6	2	⑥
製 材 工 場 数	工場	3,916	625	105	12	3	⑥
製 材 品 出 荷 量	千m ³	9,091	2,380	427	6	2	⑥
新 設 住 宅 着 工 数	戸	856,484	87,784	6,260	33	6	⑦
うち、木造数	〃	502,330	52,165	4,297	36	6	⑦
木 造 率	%	58.7	59.4	68.6	31	4	⑦

項 目	単位	全 国	九 州	大 分	全国に おける 順位	九州に おける 順位	資料
特 用 林 産 物							
乾しいたけ生産量	t	2,216	1,599	840	1	1	⑧
生しいたけ生産量	〃	71,058	9,811	1,818	14	3	⑧
えのきたけ生産量	〃	129,587	10,816	2,930	4	2	⑧
竹 材 生 産 量	千束	916	799	33	3	3	⑧
う ち マ ダ ケ	〃	70	32	25	1	1	⑧
木竹炭等生産量	t	12,265	1,072	-	-	-	⑧
森 林 組 合							
森 林 組 合 数	組合	613	76	13	18	3	⑨
森 林 組 合 員 数	千人	1,487	286	44	11	3	⑨
生 産 森 林 組 合 数	組合	2,693	394	83	13	3	⑨
生 産 森 林 組 合 員 数	千人	173	25	5	13	1	⑨
民 有 林 保 安 林 面 積	ha	5,328,755	583,709	121,329	12	2	③
国 有 林 保 安 林 面 積	〃	6,916,671	456,110	43,375	20	4	③

【参考資料一覧】

番号	発 行	資 料 名
①	国土交通省国土地理院	全国都道府県市区町村別面積調(令和3年10月1日現在)
②	林 野 庁	森林資源の現況(平成29年3月31日現在)
③	林 野 庁	2022年 森林・林業統計要覧
④	農林水産省大臣官房統計部	2020年 農林業センサス
⑤	農林水産省大臣官房統計部	令和2年 林業産出額
⑥	農林水産省大臣官房統計部	令和3年 木材統計調査
⑦	国土交通省建設経済統計調査室	令和3年 住宅着工統計
⑧	林 野 庁	令和3年 特用林産基礎資料
⑨	林 野 庁	令和2年度 森林組合統計

注) 九州には沖縄を含まない。

注) 森林資源の現況の民有林面積には、森林法第2条の森林を含む。

目 次

はじめに

本県の森林・林業の主要指標（全国・九州対比）

目次

1 森林資源の現況

(1) 森林面積	1
(2) 森林蓄積	1

2 民有林資源の現況

(1) 樹種別面積	2
(2) 樹種別蓄積	2
(3) スギ、ヒノキ人工林の齢級別面積	3
(4) スギ、ヒノキ人工林蓄積の推移	3

3 林業生産活動

(1) 造林面積の推移	4
(2) 造林樹種の割合	4
(3) 保育実績の推移	5
(4) 素材生産量の推移	6
(5) 木材需給の推移	6
(6) 素材価格の推移	7
(7) 新設住宅着工戸数と木造率の推移	7
(8) 乾しいたけの生産量と価格の推移	8
(9) 生しいたけの生産量と価格の推移	8
(10) しいたけ生産者数の推移	9
(11) 竹材生産量の推移	9
(12) 主な特用林産物の生産量の推移	10

4	担い手の確保	
(1)	森林組合の概要	11
(2)	森林組合の主な事業における事業総利益の推移	11
(3)	森林組合作業班員数と年齢構成の推移	12
(4)	林業就業者数の推移	12
(5)	林研グループ数と会員数の推移	13
5	林業生産基盤整備	
(1)	林道開設実績と林道密度の推移	14
(2)	作業道開設実績と密度の推移	14
(3)	高性能林業機械等の保有状況	15
6	森林の保全と活用	
(1)	治山事業実績の推移	16
(2)	保安林面積の推移	16
(3)	主な鳥獣による農林作物被害	17
(4)	県民の森施設利用者数の推移	17

1 森林資源の現況

(1) 森林面積

森林面積は約45万3千haで、総土地面積の71%を占めており、全国平均を上回っている。地域森林計画対象民有林の面積は約40万2千haである。

	全国	大分県
総土地面積(千ha)	37,797	634
森林面積(千ha)	25,048	453 (448)
森林率(%)	66	71

総土地面積：全国都道府県市区町村別面積調（令和3年10月1日）

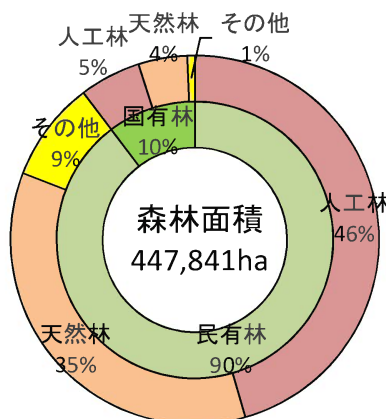
森林面積：森林法第2条第1項に規定する全ての森林

（林野庁「森林資源の現況」平成29年3月31日現在）

森林率：（森林法第2条第1項に規定する全ての森林）÷（総土地面積）

※森林法第2条第1項に規定する森林：地域森林計画に規定する民有林+その他の森林（市街化区域及び林野庁以外の省庁が所管する森林等）+林野庁所管国有林

※ただし、括弧内は地域森林計画対象民有林（林務管理課：令和4年3月31日現在）+林野庁所管国有林（九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」：平成29, 30, 令和元, 3年度）



民有林及び国有林面積(ha)

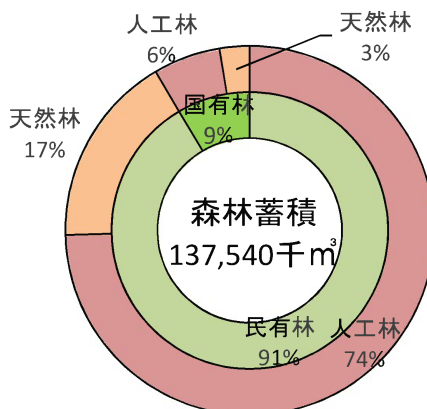
	人工林	天然林	その他	計
民有林	204,166	158,079	39,350	401,596
国有林	24,101	19,114	3,031	46,245
計	228,267	177,193	42,381	447,841

国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成29, 30, 令和元, 3年度）

民有林：林務管理課（令和4年3月31日現在）

(2) 森林蓄積

森林蓄積は約1億4千万m³で、うち民有林における森林蓄積は約1億3千万m³で91%を占める。



民有林及び国有林蓄積(千m³)

	人工林	天然林	その他	計
民有林	102,623	23,170	-	125,794
国有林	8,087	3,659	1	11,746
計	110,710	26,829	1	137,540

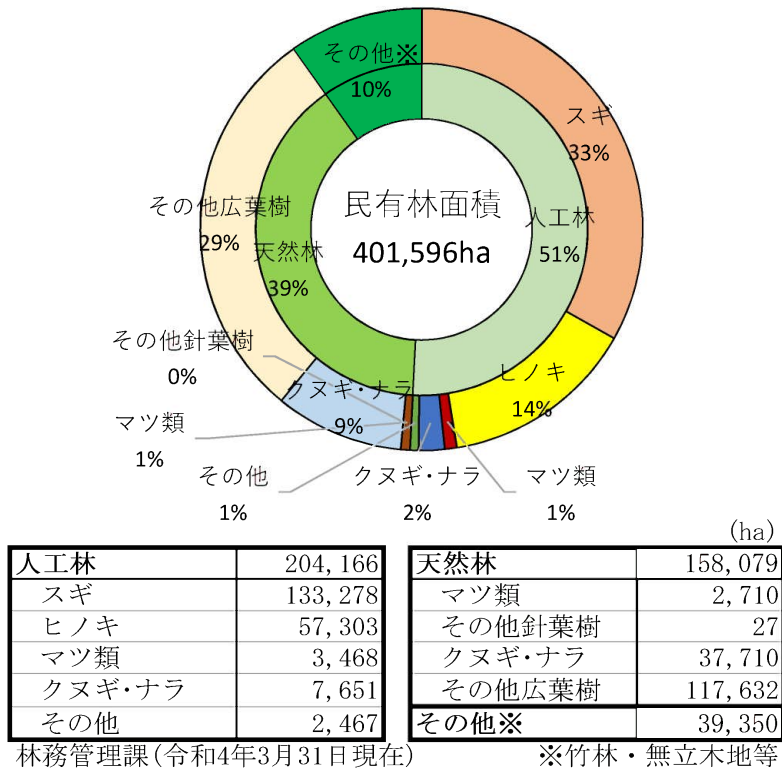
国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成29, 30, 令和元, 3年度）

民有林：林務管理課（令和4年3月31日現在）

2 民有林資源の現況

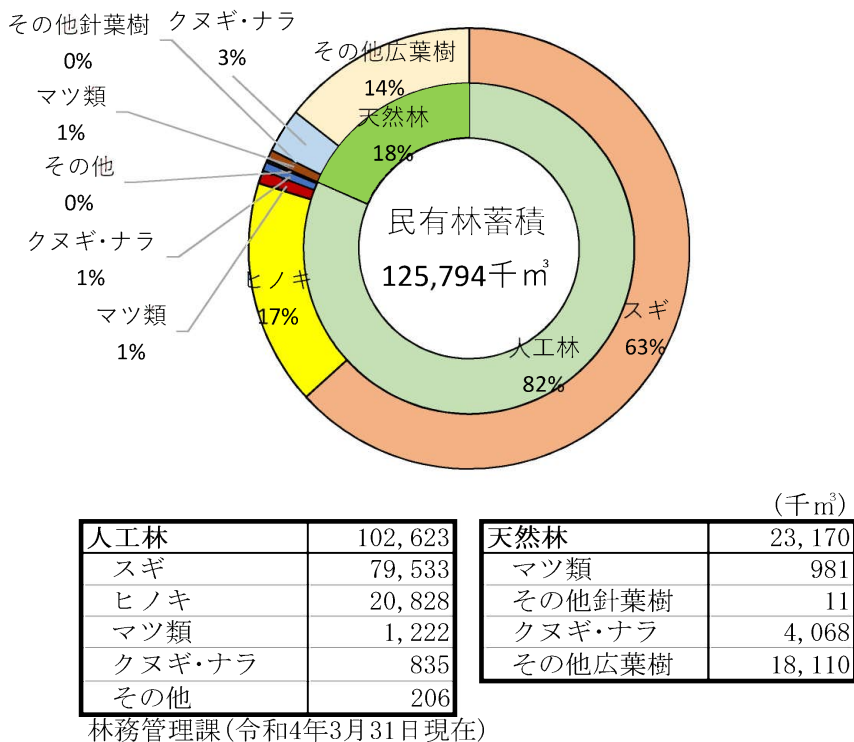
(1) 樹種別面積

民有林のうち、スギの人工林が33%、ヒノキの人工林が14%を占める。また、クヌギ・ナラ林の面積は人工林、天然林を合わせると11%を占める。



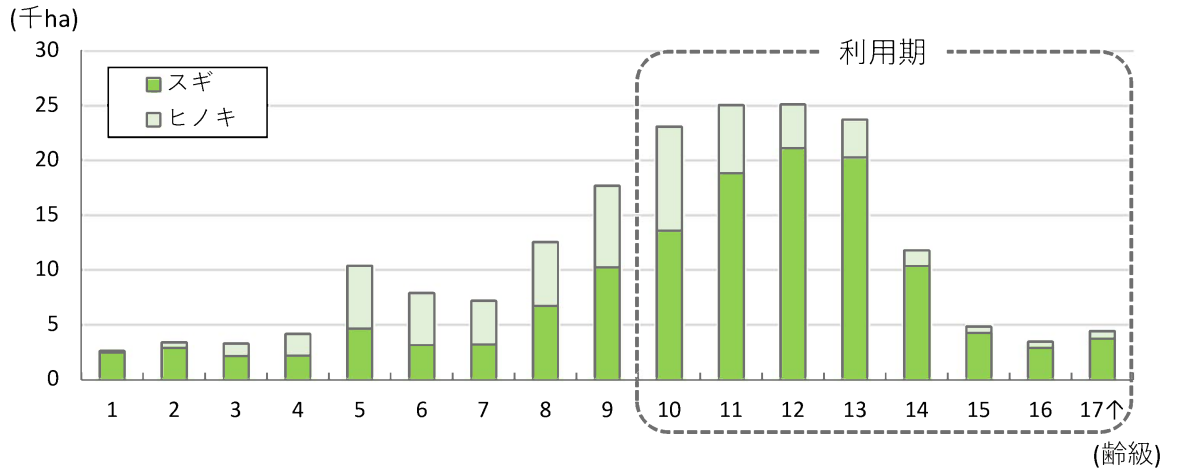
(2) 樹種別蓄積

民有林蓄積約1億14百万 m^3 のうち、人工林は約103百万 m^3 で82%を占める。また、スギの蓄積は約80百万 m^3 で、民有林全体の63%を占める。



(3) スギ、ヒノキ人工林の齢級別面積

スギ、ヒノキ人工林における利用期面積の割合は64%である。



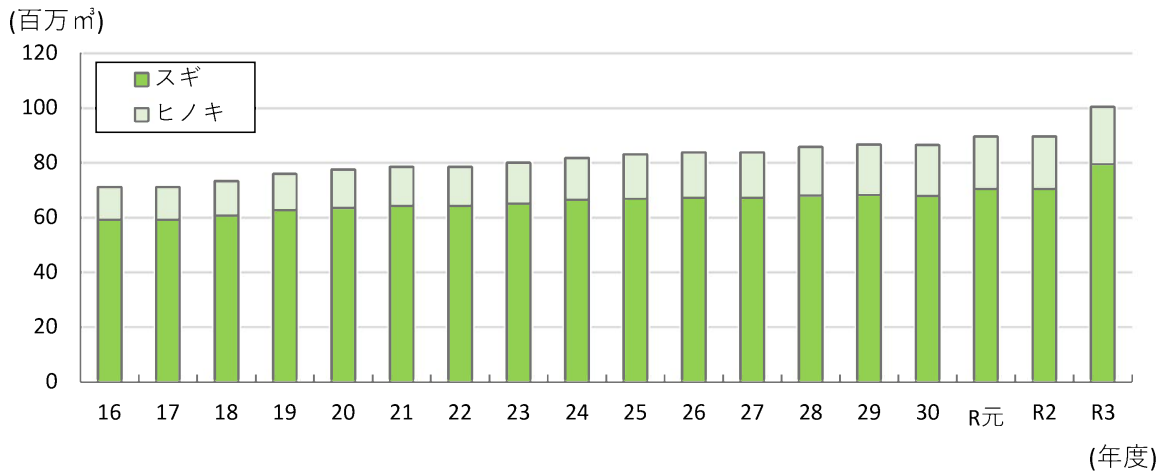
樹種 \ 齢級	1	2	3	4	5	6	7	8	9
スギ	2,533	2,922	2,210	2,243	4,679	3,203	3,250	6,775	10,256
ヒノキ	97	497	1,092	1,943	5,707	4,706	3,948	5,781	7,396

樹種 \ 齢級	10	11	12	13	14	15	16	17以上	計
スギ	13,602	18,824	21,117	20,261	10,390	4,293	2,934	3,785	133,278
ヒノキ	9,428	6,166	3,931	3,425	1,391	563	569	662	57,303

林務管理課(令和4年3月31日現在)

(4) スギ、ヒノキ人工林蓄積の推移

民有林のスギ、ヒノキ人工林蓄積は増加傾向で、100,361千 m^3 となっている。



樹種 \ 年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24
スギ	59,353	59,353	60,782	62,868	63,665	64,298	64,298	65,176	66,544
ヒノキ	11,804	11,804	12,584	13,064	13,862	14,189	14,189	14,808	15,278

樹種 \ 年度	平成25	26	27	28	29	30	令和元	令和2	令和3
スギ	66,921	67,216	67,216	68,041	68,293	67,949	70,543	70,543	79,533
ヒノキ	16,174	16,511	16,511	17,669	18,338	18,457	19,004	19,004	20,828

林務管理課(令和4年3月31日現在)

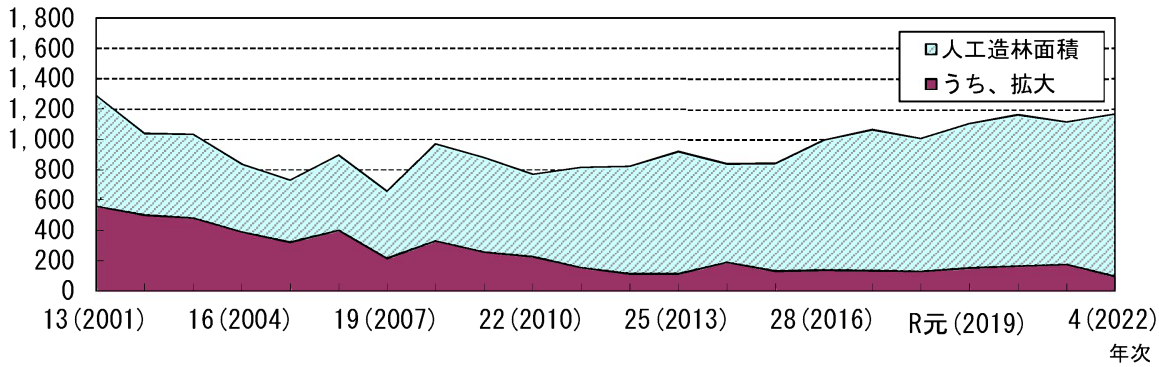
3 林業生産活動

(1) 造林面積の推移

造林面積は減少傾向が続いていたが、近年増加に転じる

人工造林面積は平成3年並びに平成5年の台風被害により復旧に伴う被害地造林が急増したものの、その後は主伐面積が減少し、人工造林面積は減少傾向が続いていた。近年では森林資源が利用期を迎えたことにより、主伐が拡大し、再造林面積は増加傾向にある。

造林面積 (ha)



年次	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)
造林面積 (ha)	1,290	1,041	1,034	837	734	898	660	971	880	770	816
うち、拡大 (ha)	560	503	481	390	322	402	217	331	256	226	155

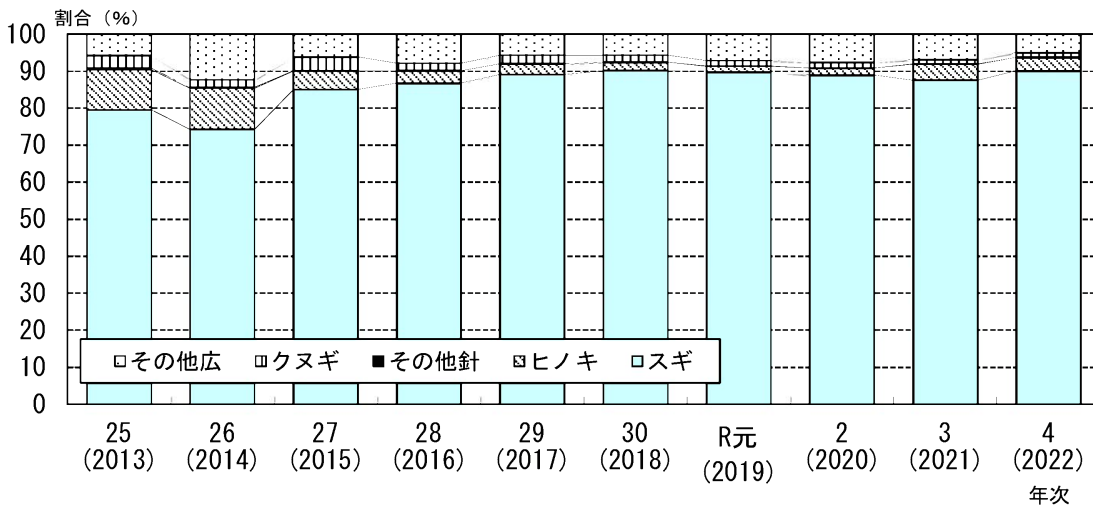
年次	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
造林面積 (ha)	825	920	839	842	997	1,064	1,007	1,105	1,164	1,117	1,169
うち、拡大 (ha)	113	114	191	132	140	134	130	151	165	175	98

森林整備室 (令和3年12月末現在)

(2) 造林樹種の割合

スギが造林樹種の90%を占める

令和3年春植の造林樹種はスギが最も多く、全体の90%を占める。また、平成24年に全体の12%であったヒノキは、3%にまで減少している。



年次	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
スギ (ha)	732	623	716	865	948	908	992	1,036	978	1,053
ヒノキ (ha)	99	93	41	34	30	22	17	22	48	40
その他針 (ha)	4	2	1	1	1	1	1	0	1	3
クヌギ (ha)	32	18	32	20	25	19	16	18	13	14
その他広 (ha)	53	103	52	78	60	57	79	89	77	59

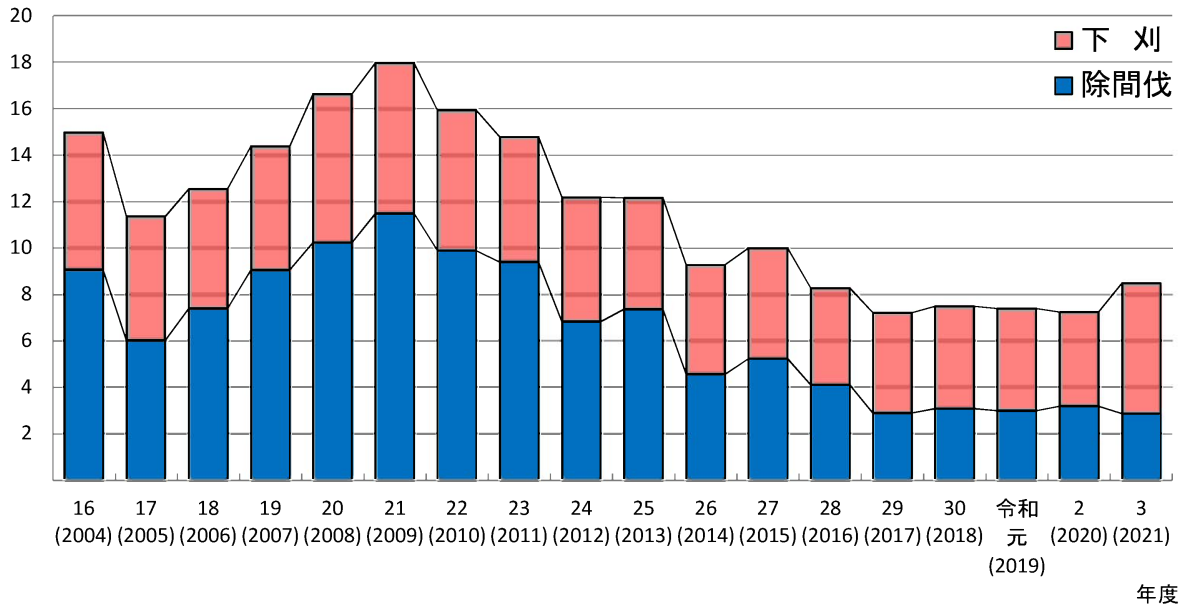
森林整備室 (令和3年12月末現在)

(3) 保育実績の推移

保育実績は減少傾向

平成3年・5年災の下刈等が一段落して以降保育実績はほぼ横ばいで推移していたが、近年は、主伐の増加に伴う除間伐の減少により、保育実績は減少傾向となっている。

面積 (千ha)



年 度	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)
下 刈(ha)	5,927	5,349	5,159	5,334	6,406	6,493	6,045	5,399	5,364
除 間 伐(ha)	9,054	6,010	7,375	9,043	10,234	11,480	9,879	9,385	6,812
保 育 計(ha)	14,981	11,359	12,534	14,377	16,640	17,973	15,925	14,784	12,177
年 度	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
下 刈(ha)	4,806	4,717	4,772	4,163	4,319	4,420	4,413	4,049	5,632
除 間 伐(ha)	7,357	4,547	5,225	4,106	2,889	3,067	2,978	3,177	2,850
保 育 計(ha)	12,163	9,264	9,997	8,269	7,208	7,487	7,391	7,226	8,482

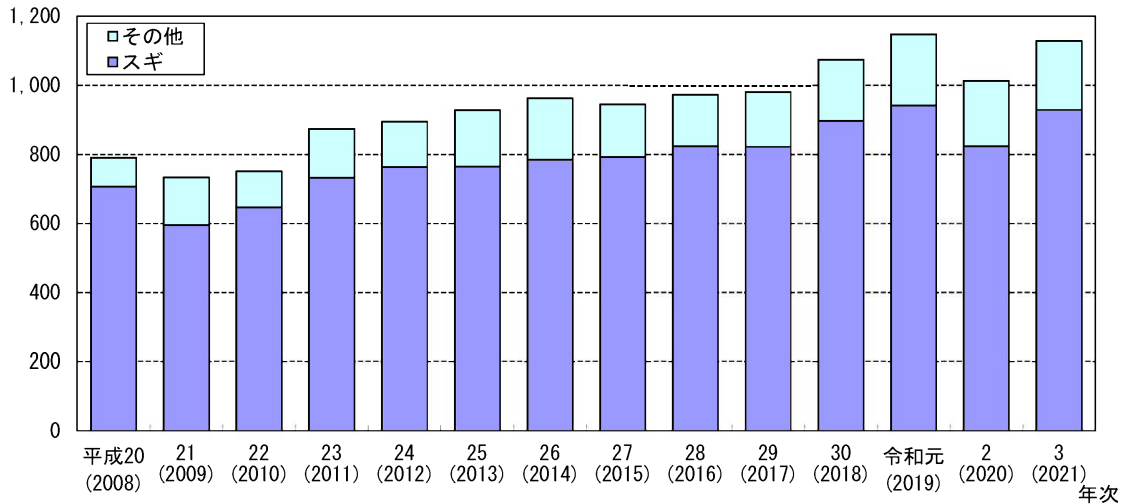
森林整備室 (令和4年3月31日現在)

(4) 素材生産量の推移

令和3(2021)年次の素材生産量は1,129千 m^3

素材生産量は、平成6(1994)年次の1,071千 m^3 から平成21(2009)年次の734千 m^3 まで減少傾向だったが、その後の合板・集成材等の国産材需要の増大に伴い、近年は増加傾向である。令和2(2020)年次は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、木材需要が減少したことに伴い、一時的に減少したものの、令和3(2021)年次は、ウッドショックにより、木材需要が高まり増加した。なお、樹種別ではスギが最も多く、全生産量の82%を占めている。

生産量(千 m^3)



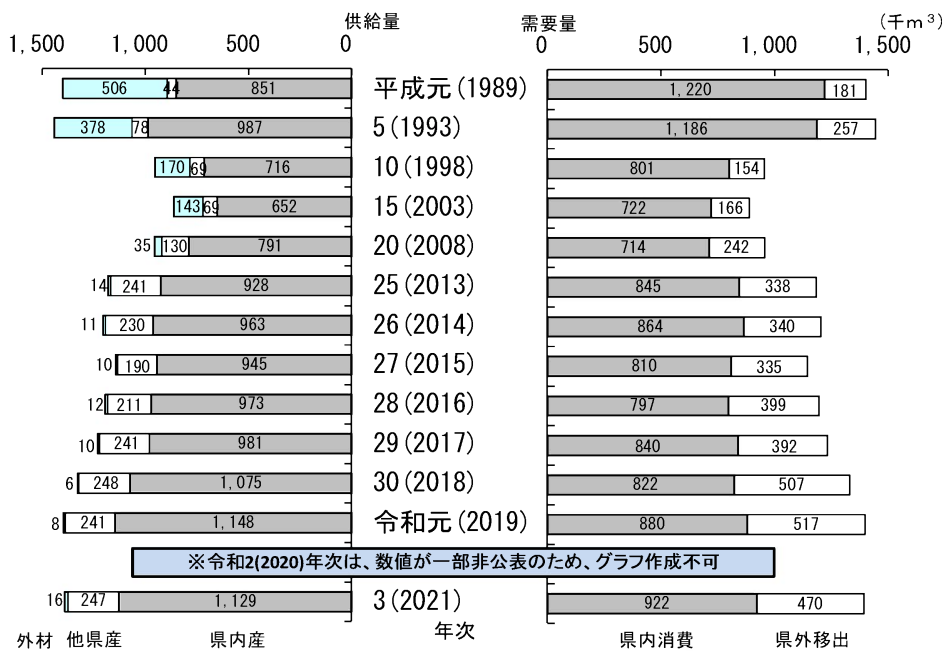
年次	平成20(2008)	21(2009)	22(2010)	23(2011)	24(2012)	25(2013)	26(2014)	27(2015)	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)
スギ(千 m^3)	707	596	648	733	764	765	785	793	825	822	898	942	824	929
総数(千 m^3)	791	734	752	874	895	928	963	945	973	981	1,075	1,148	1,014	1,129

農林水産省大臣官房統計部「木材統計」(令和4(2022)年6月14日現在)

(5) 木材需給の推移

令和3(2021)年次需給量は1,392千 m^3 で、県内産の割合は81%

木材需給量は平成6(1994)年次をピークに減少傾向であったが、平成15(2003)年次以降増加傾向にある。需要量に占める県内産の割合はおおよそ横ばいで推移し66%となっている。

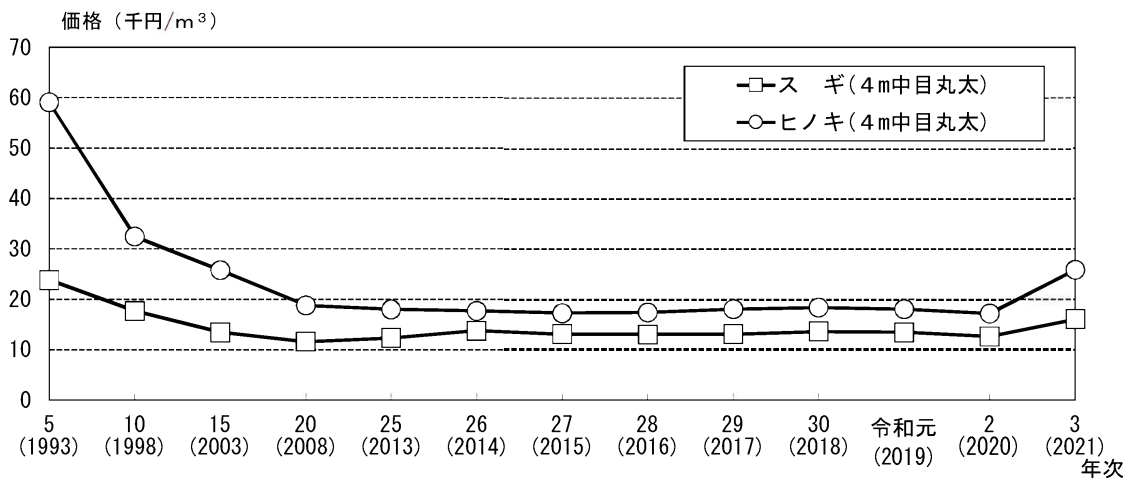


農林水産省大臣官房統計部「木材統計」(令和4(2022)年6月14日現在)

(6) 素材価格の推移

令和3(2021)年次のスギ4m中目丸太素材価格は16,100円/m³

令和3(2021)年次における4m中目丸太の素材価格は、スギが16,100円/m³、ヒノキが25,900円/m³であった。ウッドショックの影響により、スギ、ヒノキともに上昇している。



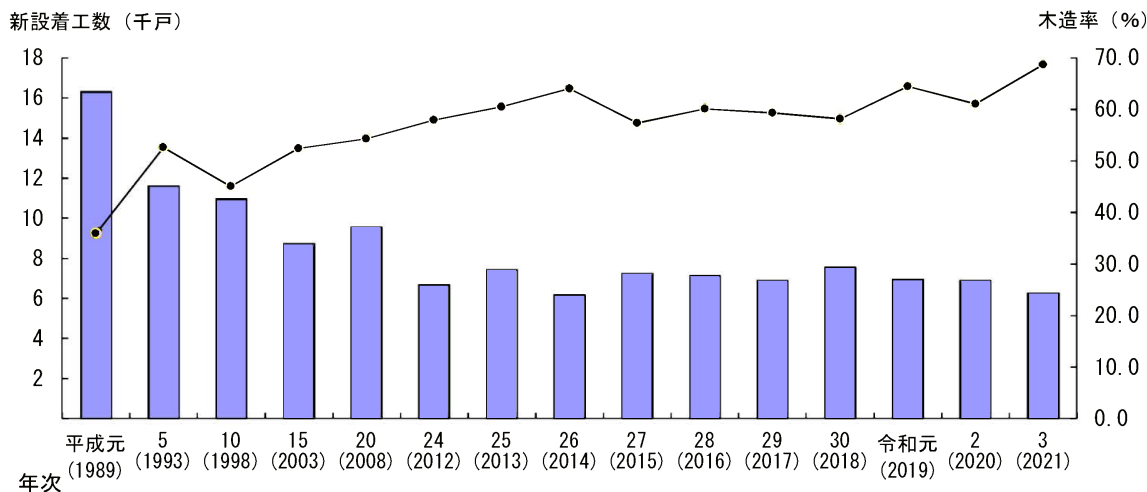
年次	昭和59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
スギ (千円/m ³)	26.4	25.9	23.9	17.7	13.5	11.6	12.4	13.8	13.1	13.0	13.1	13.6	13.5	12.7	16.1
ヒノキ (千円/m ³)	55.8	66.0	59.1	32.5	25.8	18.8	18.0	17.7	17.3	17.4	18.1	18.4	18.1	17.2	25.9

農林水産省「木材需給報告書」(令和4(2022)年3月31日現在)

(7) 新設住宅着工戸数と木造率の推移

新設住宅着工戸数は、平成20(2008)年次まで約10千戸で推移していたが、平成21(2009)年次のリーマンショック以降は約7千戸で推移している。

また、木造率については、平成20(2008)年次まで約50%で推移していたが、平成21(2009)年次以降は約60%と高くなっており、令和3(2021)年次は、約70%近くまで高くなっている。



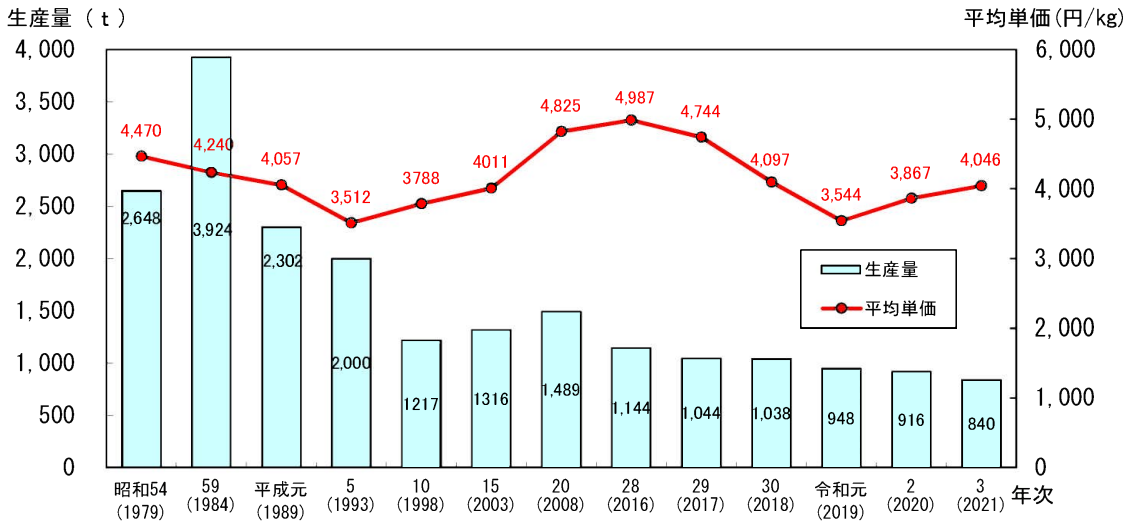
年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)
新設住宅着工戸数 (戸)	15,668	10,970	16,297	11,607	10,952	8,718	9,550	5,840	5,758	5,691
木造率 (%)	57.7	49.5	35.9	52.6	45.1	52.4	54.3	66.9	62.7	59.2
年次	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
新設住宅着工戸数 (戸)	6,670	7,431	6,165	7,254	7,139	6,889	7,549	6,926	6,892	6,260
木造率 (%)	57.9	60.4	64.0	57.3	60.1	59.3	58.1	64.4	61.0	68.6

国土交通省「住宅着工統計」(令和4(2022)年1月31日現在)

(8) 乾しいたけの生産量と価格の推移

生産量は840t、平均単価は4,046円/kg

生産者の高齢化に伴う伏込量の減少により、生産量は前年次より76t減少したが、全国シェア38% (全国1位) となっている。平均価格は前年次を179円上回っている (うまみだけを含む)。
 なお、うまみだけのみの平均価格は4,697円とし、全体平均を押し上げている。



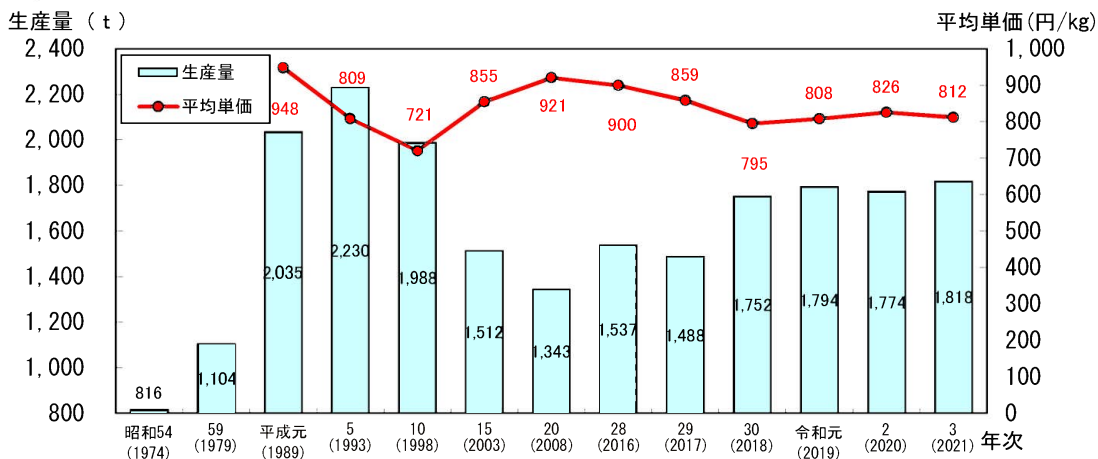
年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)
生産量(t)	2,648	3,924	2,302	2,000	1,217	1,316	1,489
平均単価(円/kg)	4,470	4,240	4,057	3,512	3,788	4,011	4,825
年次	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)	
生産量(t)	1,144	1,044	1,038	948	916	840	
平均単価(円/kg)	4,987	4,744	4,097	3,544	3,867	4,046	

生産量：林産振興室「特用林産物需給表」(令和4年9月30日現在) 平均単価：大分県椎茸農業協同組合「業務報告書」

(9) 生しいたけの生産量と価格の推移

生産量は1,818t、平均単価は812円/kg

生産者の規模拡大により、生産量は前年次から44t増加したが、平均単価は前年次を14円下回っている。



年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)
生産量(t)	816	1,104	2,035	2,230	1,988	1,512	1,343
平均単価(円/kg)	-	-	948	809	721	855	899
年次	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)	
生産量(t)	1,537	1,488	1,752	1,794	1,774	1,818	
平均単価(円/kg)	900	859	795	808	826	812	

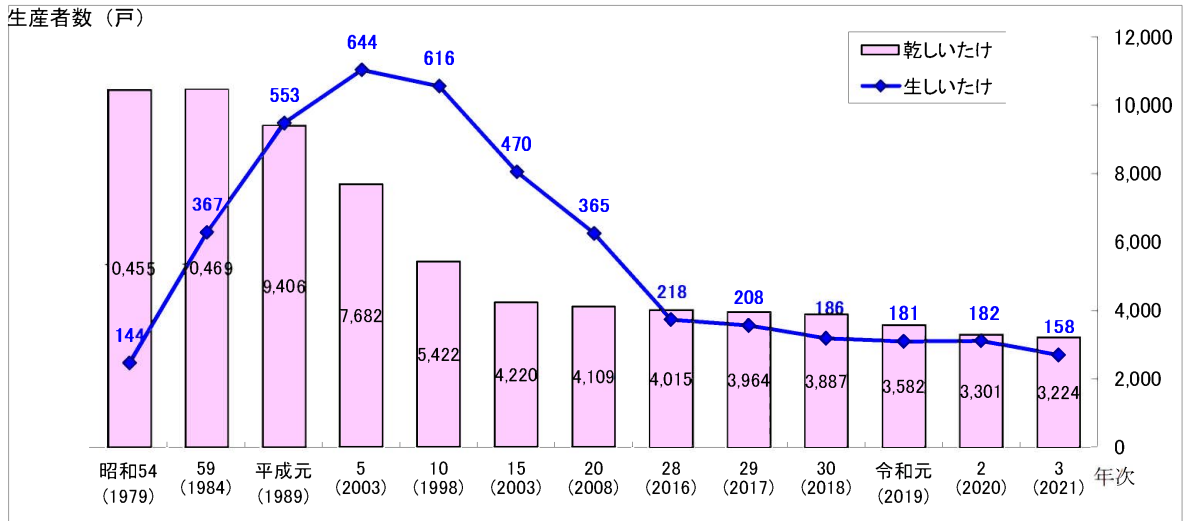
生産量：林産振興室「特用林産物需給表」(令和4年9月30日現在)

平均単価：大分市公設地方卸売市場「市場年報」

(10) しいたけ生産者数の推移

乾しいたけ生産者は3,224戸、生しいたけ生産者は158戸

乾しいたけ生産者は高齢化が進んでおり、その数も長期的に減少傾向となっている。一方で、令和3年次は19名が新規就業しており、技術の継承を図っている。



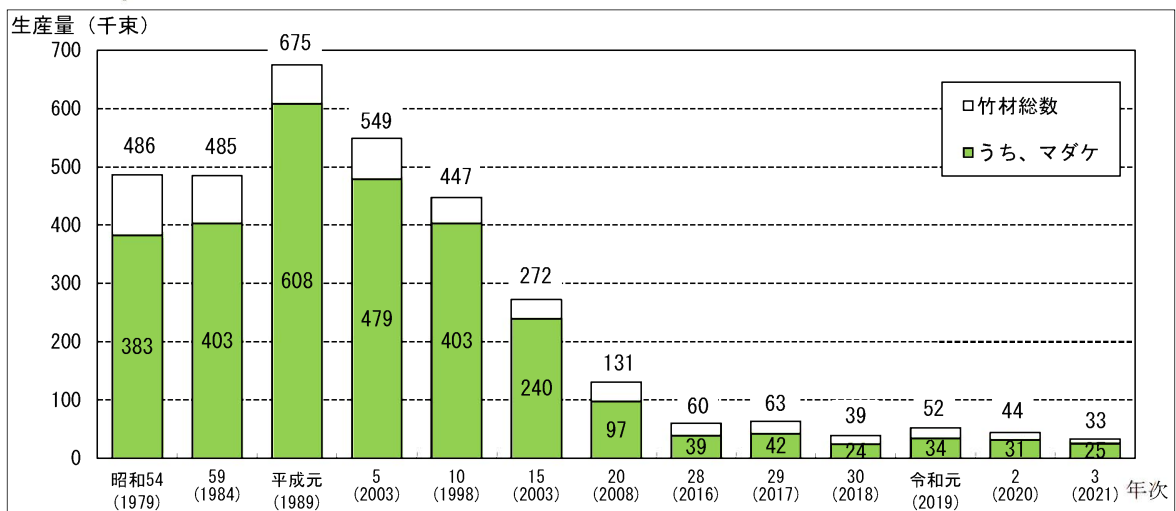
年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
乾しいたけ (戸)	10,455	10,469	9,406	7,682	5,422	4,220	4,109	4,015	3,964	3,887	3,582	3,301	3,224
生しいたけ (戸)	144	367	553	644	616	470	365	218	208	186	181	182	158
	内 (菌床)	-	-	-	(50)	(101)	(91)	(70)	(43)	(43)	(47)	(44)	(43)

林産振興室「特用林産物需給表」(令和4年9月30日現在)

(11) 竹材生産量の推移

竹材の生産量は33千束

大分県の竹材生産量は全国第3位であり、特に本県竹材生産量の約78%を占めるマダケの生産量は全国シェア約36%(第1位)となっている。近年はプラスチック等の代替材の進出により需要量が減少したため、生産量は減少している。

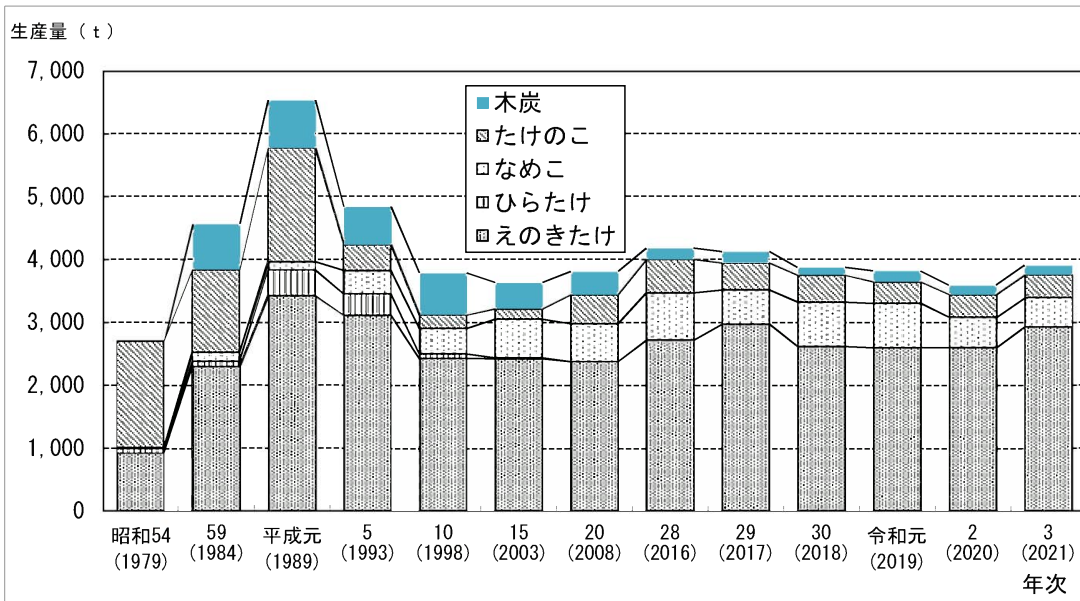


年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
マダケ (千束)	382.8	403.0	608.3	479.0	403.0	239.8	97.2	38.9	42.4	23.7	33.9	31.1	25.4
竹材総数 (千束)	486.2	484.5	675.3	548.8	447.2	272.3	130.6	60.0	63.1	39.0	52.0	44.0	33.0

林産振興室「特用林産物需給表」(令和4年9月30日現在)

(12) 主な特用林産物の生産量の推移

えのきたけは日田市で大規模に安定した生産が行われている。



年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)
生しいたけ(t)	816	1104	2,035	2,230	1,988	1,512	1,343
えのきたけ(t)	925	2,302	3,422	3,112	2,429	2,426	2,379
ひらたけ(t)	76	87	412	340	73	14	—
なめこ(t)	17	139	129	372	403	610	602
きのこ類 小計(t)	1,834	3,632	5,998	6,055	4,893	4,562	4,324
たけのこ(t)	1,686	1,307	1,805	410	210	162	458
木炭(t)	—	729	762	603	667	417	366
年次	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)	
生しいたけ(t)	1,537	1,488	1,752	1,794	1,774	1,818	
えのきたけ(t)	2,718	2,973	2,616	2,599	2,599	2,930	
ひらたけ(t)	1	1	1	1	1	1	
なめこ(t)	753	540	705	701	481	460	
きのこ類 小計(t)	5,008	5,002	5,074	5,094	4,854	5,209	
たけのこ(t)	526	428	424	340	360	363	
木炭(t)	179	180	124	173	147	148	

林産振興室「特用林産物需給表」(令和4年9月30日現在)

4 担い手の確保

(1) 森林組合の概要

地域林業の中核的な担い手として期待される森林組合

森林組合に対するニーズは森林の適正な整備管理はもとより、地域林業の振興、林業労働力の確保などますます多様化しており、中核的担い手としてその果たすべき役割は一層重要なものとなっている。

このため、自己資本の充実等経営基盤の強化を図り、森林施業の受託や林産事業の拡大等により事業を推進している。

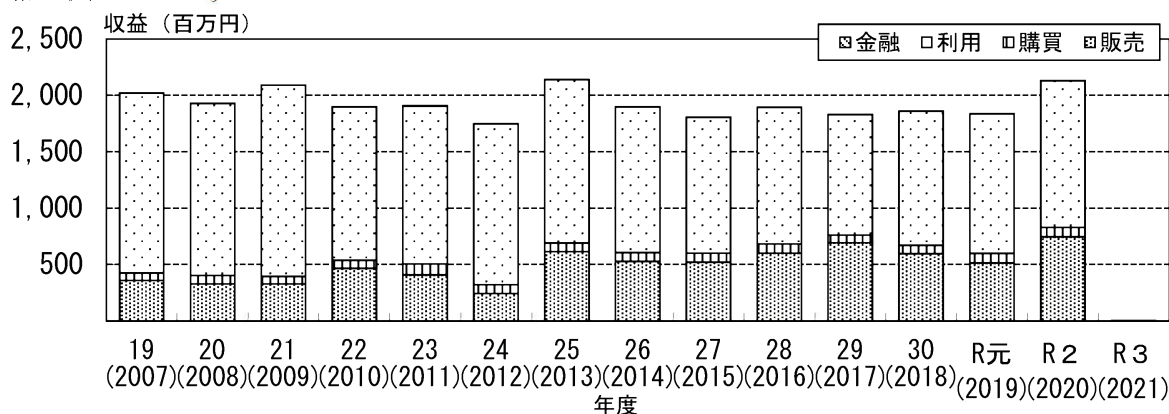
組合名	所在地	常勤従業員数 (人)	森林面積 (ha)	組合員 所有面積 (ha)	組合員数 (人)	払込済出資金 (千円)	作業班員数 (人)	設立 年月日
西高	豊後高田市	8	15,197	11,886	2,377	22,420	9	S55. 4. 1
国東	国東市	11	19,815	12,995	2,673	38,817	10	H 3. 1. 10
別杵速見	杵築市	8	21,749	15,440	2,646	75,185	10	H 6. 11. 1
おおい	由布市	11	40,333	61,525	3,802	170,371	5	H 5. 3. 26
白津関	白杵市	5	17,609	10,380	1,991	27,138	1	H 6. 3. 31
佐伯広域	佐伯市	39	64,551	45,439	4,708	714,204	114	H 2. 3. 31
大野郡	豊後大野市	17	47,000	29,096	3,693	225,530	26	H元. 4. 1
竹田市	竹田市	16	28,073	21,320	3,270	96,819	7	H元. 10. 2
玖珠郡	玖珠町	18	35,406	26,847	3,552	135,713	16	S63. 9. 1
日田市	日田市	25	20,473	18,262	4,136	383,686	26	S41. 6. 1
日田郡	日田市	19	32,284	29,185	4,626	496,802	14	S53. 10. 1
山国川流域	中津市	17	35,460	30,770	4,525	108,659	12	S61. 4. 1
宇佐地区	宇佐市	10	23,858	15,445	1,671	69,105	16	H 4. 6. 1

林務管理課「森林組合の概況」(令和4年6月30日現在)

(2) 森林組合の主な事業における事業総利益の推移

森林整備の取組による経営基盤の強化

森林組合の主な事業における事業総利益は、令和2年度は約21億円で、森林整備や木材の安定供給に取組んでいる。



年 度	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)
販 売	360	329	327	466	409	242	613	527
購 買	66	72	67	70	97	79	76	77
利 用	1,593	1,527	1,696	1,361	1,401	1,425	1,449	1,293
金 融	2	1	1	1	1			
合 計	2,021	1,929	2,091	1,899	1,907	1,746	2,138	1,897
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	
販 売	518	601	694	597	515	748	1,790	
購 買	84	82	70	72	83	84	77	
利 用	1,204	1,208	1,064	1,190	1,236	1,298	1,233	
金 融								
合 計	1,806	1,892	1,828	1,859	1,834	2,130	3,099	

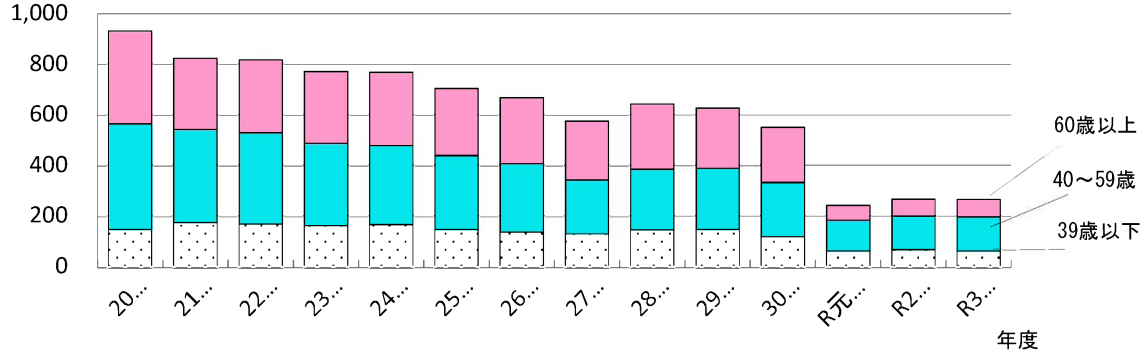
林務管理課「森林組合の概況」(令和4年6月30日現在)

(3) 森林組合作業班員数と年齢構成の推移

高齢化等により減少傾向

森林組合作業班員は、令和3年度現在、60歳以上が26%を占めている。緑の雇用制度の活用や社会補償の充実等により雇用環境の整備を行っている。なお、令和元年度以降、作業班員は森林組合の雇用労働者に限定している。

作業班員数（人）



年 度	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
39歳以下(人)	146	174	168	162	165	147	137	129	145	146	117	61	66	62
40～59歳(人)	418	368	361	326	313	292	269	214	239	243	215	123	133	135
60歳以上(人)	366	281	287	282	289	265	262	231	258	237	218	58	68	69
合 計(人)	930	823	816	770	767	704	668	574	642	626	550	242	267	266

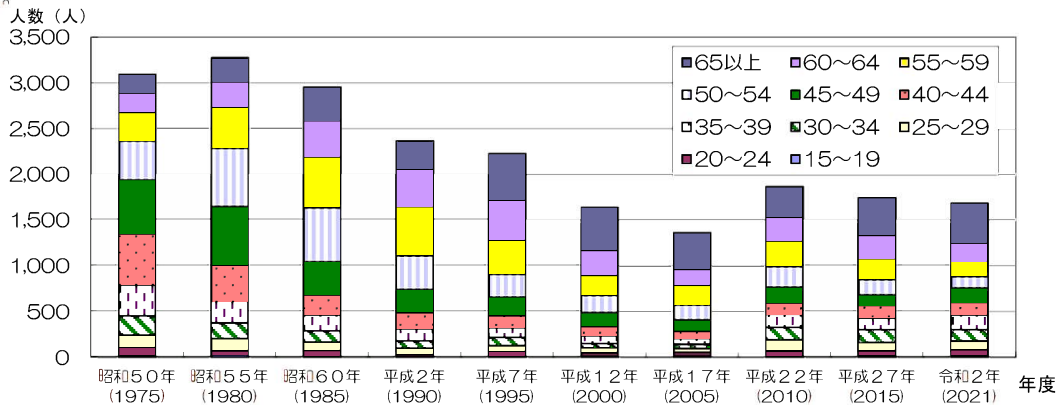
林務管理課「森林組合の概況」（令和4年6月30日現在）

（注）令和元年度以降、作業班員は森林組合の雇用労働者に限る（共販所、加工所等を含む）

(4) 林業就業者数の推移

平成27年度調査結果の林業就労者数は1,743人

昭和55年以降一貫して減少傾向にあったが、近年持ち直しの傾向。また、高齢化が課題となっている。



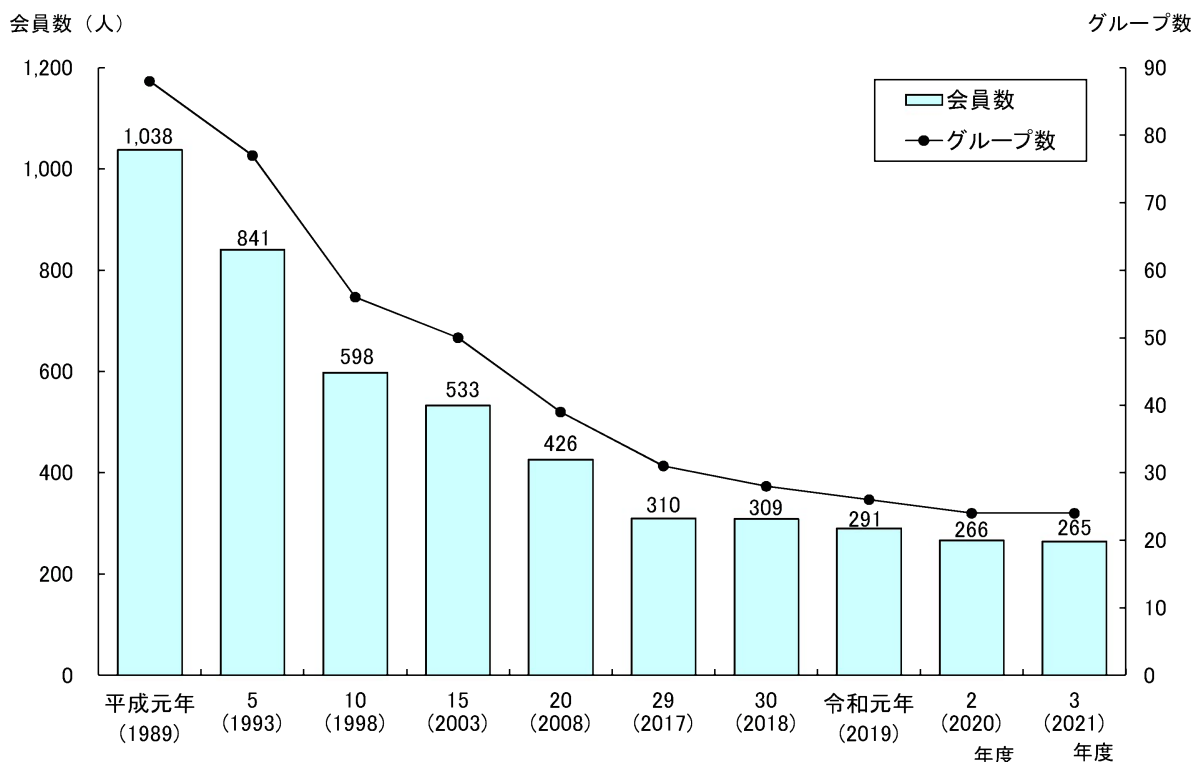
年 度	年齢階層	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65以上	計
昭和50年(1975)		15	89	129	208	339	567	594	423	312	208	212	3,096
昭和55年(1980)		22	54	122	171	235	403	640	637	450	272	269	3,275
昭和60年(1985)		8	66	85	122	174	222	366	590	557	391	370	2,951
平成2年(1990)		3	26	62	79	134	186	249	369	533	411	311	2,363
平成7年(1995)		12	54	56	88	103	143	202	246	374	437	510	2,225
平成12年(2000)		13	33	51	46	82	106	154	189	220	272	471	1,637
平成17年(2005)		16	39	43	41	58	87	124	161	218	174	401	1,362
平成22年(2010)		13	62	108	137	139	129	179	226	278	254	341	1,866
平成27年(2015)		14	57	85	136	128	139	124	165	224	262	409	1,743
令和2年(2021)		16	66	90	120	161	141	159	129	161	206	434	1,683

令和2年度国勢調査

※平成22年度以降は、平成17年度までの調査区分に「林業に関して管理、補助的経済活動を行う事務所の就業者」が追加

(5) 林研グループ数と会員数の推移

昭和37年に地域林業の中核的な担い手の育成を目指して大分県林研グループ連合会が発足したが、以後グループ数・会員数ともに減少している。



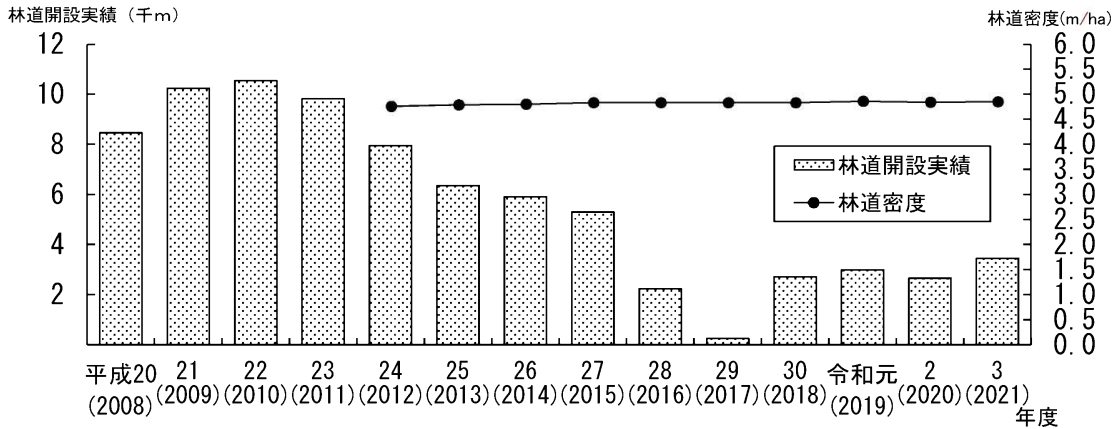
	平成元年 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	29 (2017)	30 (2018)	令和元年 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
グループ数	88	77	56	50	39	31	28	26	24	24
会員数	1,038	841	598	533	426	310	309	291	266	265

林務管理課「林研グループ実態調査」(令和4年3月31日現在)

5 林業生産基盤整備

(1) 林道開設実績と林道密度の推移

令和3年度の開設実績は3,451mで、路網密度は4.85m/haとなる。



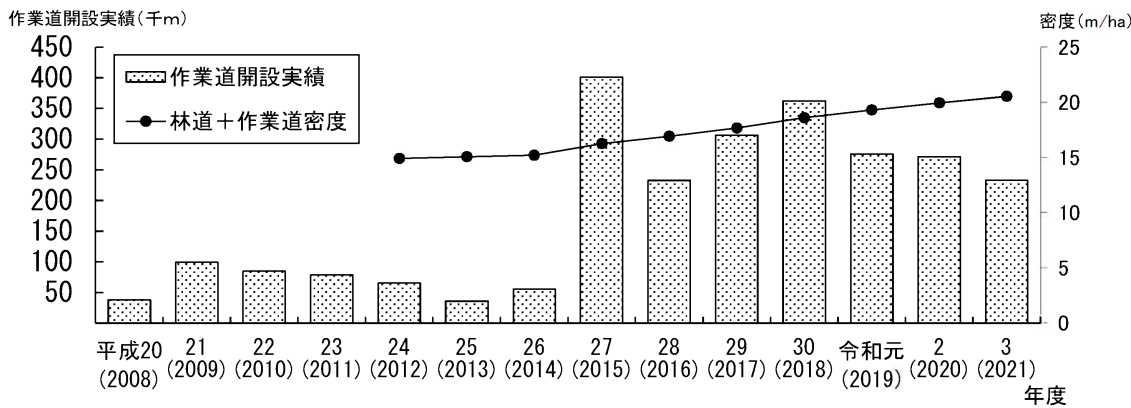
年 度	平成20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)
林道開設実績 (m)	8,454	10,238	10,538	9,816	7,949	6,352	5,908
林道密度 (m/ha)	4.56	4.72	4.71	4.75	4.76	4.79	4.80
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
林道開設実績 (m)	5,295	2,237	250	2,723	2,991	2,663	3,451
林道密度 (m/ha)	4.83	4.83	4.83	4.83	4.86	4.84	4.85

※林道密度は現況の林道延長による
林務管理課 (令和4年3月31日現在)

(2) 作業道開設実績と密度の推移

林道を補完し、森林施業を効率的にする目的で作業道の整備を進めている

令和3年度末の林道+作業道密度は 20.54 m/haであり漸次増加している。



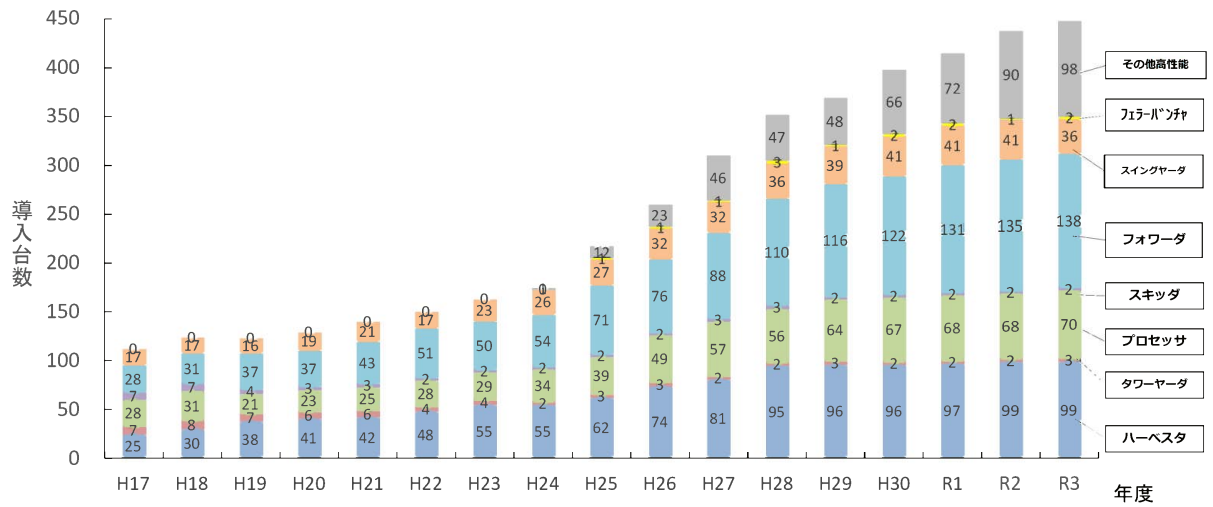
年 度	平成20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)
作業道開設実績 (m)	37,940	99,387	84,836	78,382	65,188	36,053	55,269
(林道+作業道)密度 (m/ha)	13.95	14.34	14.54	14.78	14.93	15.07	15.21
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
作業道開設実績 (m)	401,065	232,785	306,336	362,069	275,777	271,242	233,291
(林道+作業道)密度 (m/ha)	16.26	16.92	17.68	18.60	19.30	19.95	20.54

※密度は開設実績の現況
林務管理課 (令和4年3月31日現在)

(3) 高性能林業機械等の保有状況

低コスト・省力化林業を推進

近年急速に機械化が進んでおり、特にハーベスタ・プロセッサなどの造材用の機械やフォワーダの導入が進んでいる。



年 度	平成17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
ハーベスタ	25	30	38	41	42	48	55	55	62	74	81	95	96	96	97	99	99
タワーヤード	7	8	7	6	6	4	4	2	3	3	2	2	3	2	2	2	3
プロセッサ	28	31	21	23	25	28	29	34	39	49	57	56	64	67	68	68	70
スキッド	7	7	4	3	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2
フォワーダ	28	31	37	37	43	51	50	54	71	76	88	110	116	122	131	135	138
スイングヤード	17	17	16	19	21	17	23	26	27	32	32	36	39	41	41	41	36
フェラー・バンチャ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	1	2	2	1	2
その他高性能機械	0	0	0	0	0	0	0	1	12	23	46	47	48	66	72	90	98
保有累計台数	112	124	123	129	140	150	163	174	217	260	310	352	369	398	415	438	448

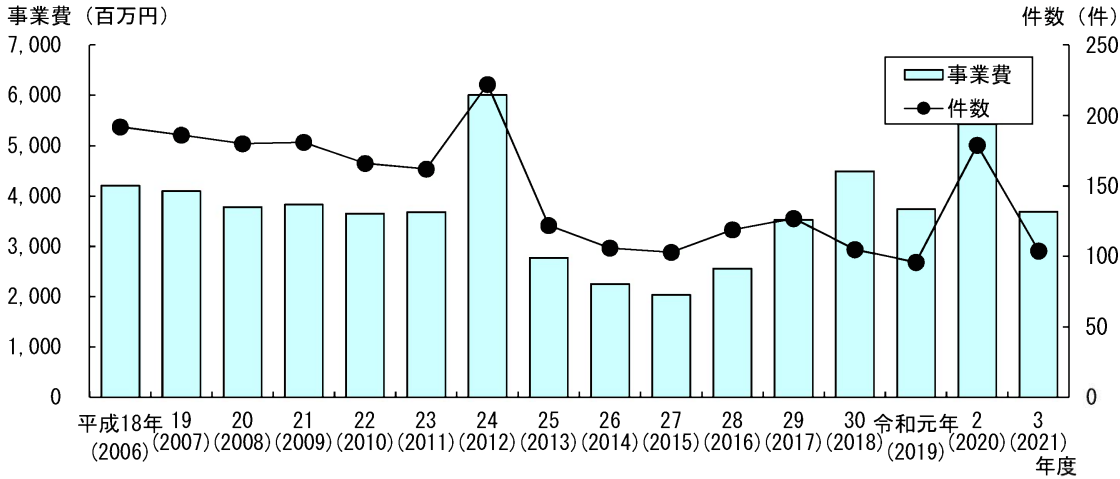
林務管理課（令和4年3月31日現在）

6 森林の保全と活用

(1) 治山事業実績の推移

令和3(2021)年度治山事業実績は約37億円

本県の山地災害危険地区は令和3(2021)年度末現在6,954箇所、約16,174haである。治山事業は県民の生活環境を保全形成し、安全・安心な暮らしを守るため、山地災害の防止や水源かん養機能の拡充強化を図っている。



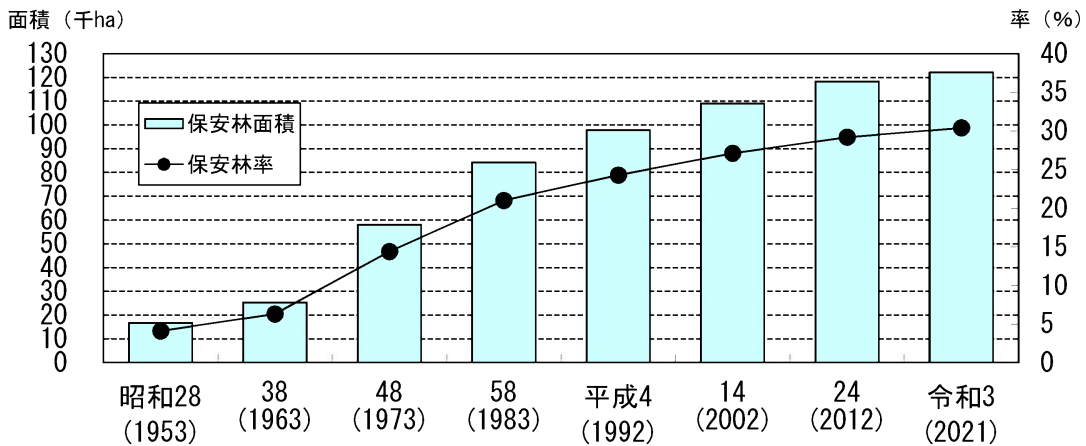
年 度	平成18年 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
件 数 (件)	192	186	180	181	166	162	222	122
事業費 (百万円)	4,205	4,100	3,781	3,832	3,654	3,682	6,007	2,773
年 度	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元年 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
件 数 (件)	106	103	119	127	105	96	179	104
事業費 (百万円)	2,251	2,037	2,560	3,530	4,496	3,742	6,095	3,696

森林保全課 (令和2年3月31日現在)

(2) 保安林面積の推移

保安林指定面積は着実に増加し、令和3年度には約122.2千ha

保安林の指定森林は着実に拡大し、令和3年度に122.2千haとなり、民有林面積の約30%に達した。保安林では森林の保全と適正な施業の実施により、公益的機能の発揮に努めている。

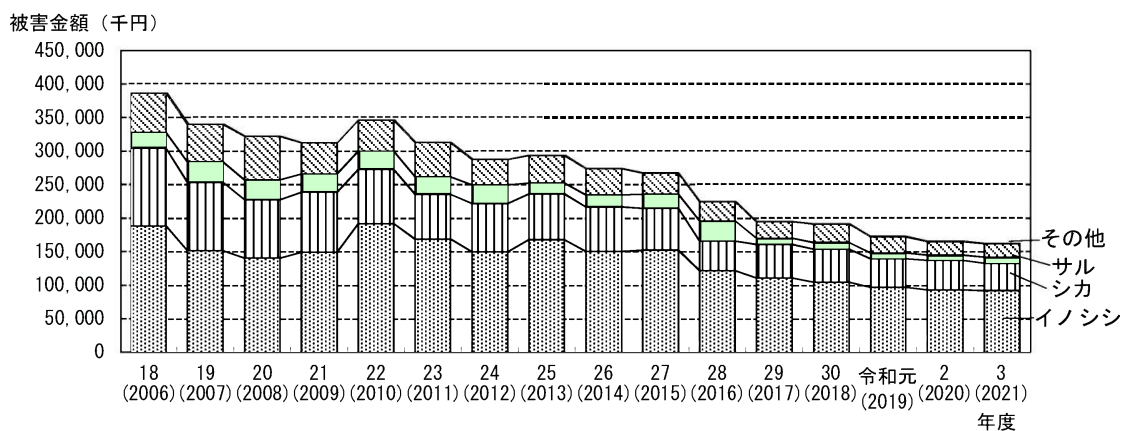


年 度	昭和28 (1953)	38 (1963)	48 (1973)	58 (1983)	平成4 (1992)	14 (2002)	24 (2012)	令和3 (2021)
保安林面積 (千ha)	16.7	25.4	58.1	84.2	97.1	109.1	118.4	122.2
保安林率 (%)	4.1	6.3	14.4	21.0	24.2	27.1	29.2	30.4

森林保全課 (令和4年3月31日現在)

(3) 主な鳥獣による農林作物被害

令和3年度は前年度より約3百万円減少し、1億6千2百万円となった。これは過去最小の被害額。(過去最多の被害額はH8年の5億9千万円)



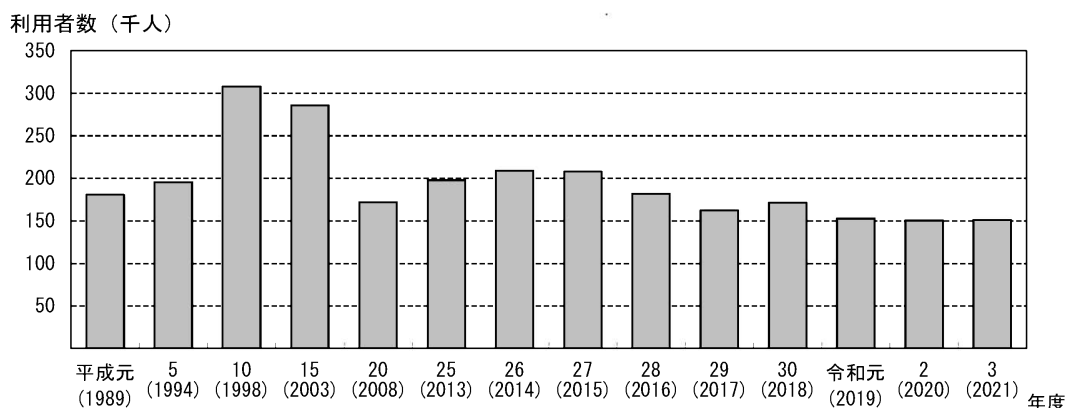
(単位：千円)

年 度	平成18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
イノシシ	188,692	151,704	140,666	149,440	192,121	169,086	150,147	168,496
シカ	115,393	101,820	87,099	89,588	80,635	66,667	71,961	67,999
サル	23,405	30,544	29,340	26,977	27,183	26,061	27,700	15,978
その他	59,190	55,914	65,009	46,510	46,359	51,063	37,667	41,254
合 計	386,680	339,982	322,114	312,515	346,298	312,877	287,475	293,727
年 度	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
イノシシ	150,702	152,708	122,171	111,376	104,909	97,351	93,252	92,321
シカ	66,516	62,228	43,966	49,897	49,270	42,623	44,306	40,744
サル	17,712	21,084	30,285	9,253	9,913	8,543	7,850	9,236
その他	38,936	31,287	28,678	24,360	27,665	23,959	19,867	19,887
合 計	273,866	267,307	225,100	194,886	191,757	172,476	165,275	162,188

森との共生推進室 「鳥獣関係統計」 (令和4年3月31日現在)

(4) 県民の森施設利用者数の推移

森林、自然とのふれあいを通し、県民の保健、休養に資するとともに、憩い、学び、体験できる施設として維持・管理を行っている。



年 度	平成元 (1989)	5 (1994)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	25 (2013)	26 (2014)
利用者数 (人)	180,817	195,485	308,336	285,758	172,026	197,869	209,022
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)
利用者数 (人)	207,743	181,753	162,354	171,346	152,717	150,379	150,973

森との共生推進室 (令和4年3月31日現在) (注) 平成18年度より公の施設の利用人員に限定して集計

発行日／ 令和5年3月
発行者／ 大分県農林水産部林務管理課
〒870-8501
大分市大手町3-1-1
TEL097-506-3816